

平成31年3月21日(木)

老球の細道470号

## 「基本」なくして成功なし

会津バスケットボール協会 室井 富仁

来年の東京五輪を控えて、なにかと前回1964年の第18回東京五輪に関するドキュメンタリーが連日テレビなどで放映されている。私は小学5年生であったが、その頃のことを今でも鮮明に覚えている。その後同じようにテレビにくぎ付けになったのが『ウルトラマン』(1966年～67年)である。監督が須賀川出身だった円谷英二。『決定!これが日本のベスト100』(テレビ朝日系列)の2002年9月8日放送分「あなたが選んだヒーローベスト100」の第2位にランクインしている。固有名詞としての「ウルトラマン」は、『広辞苑』の見出しにも記載されているという。

「ウルトラマン」シリーズの『帰って来たウルトラマン』(1971年～1972年放映)の最終回で地球の子どもたちに残したメッセージ「ウルトラの誓い」というのがあった。現役教員の頃、生徒指導部代表で今頃行われる「新入生オリエンテーション」などで初々しい新入生と保護者たちを前に真面目に語ったものである。生徒指導部の話というのと、「遅刻をするな」「服装をきちんとしろ」「悪いことはするな」、「高校は謹慎、退学があるぞ」などが定番であるが、私は「ウルトラの誓い」を例に挙げて、日常生活の基本中の基本を大切にすることを話した。「ウルトラの誓い」とは下記の通り。

- 一、腹ペコのまま学校に行かないこと
- 一、天気の良い日は布団をほすこと
- 一、道を歩く時には車に気をつけること
- 一、他人の力を頼りにしないこと
- 一、土の上を裸足で走りまわって遊ぶこと

ウルトラマンは怪獣の侵略から地球を守ってくれただけでなく、子どもたちの健全な発育、発達に心を配っていた。ビルの上をブーツで走り回って、「シュワッチ!」と言いながら地球を侵略する怪獣と戦っているだけかと思ったら、「やっぱり布団はフカフカじゃなきゃ!」なんて考えていたのかと思うとヒーローも身近に感じる。ウルトラマンもやはり心を配るところは基本的なところなんだ。

ところで突然話は変わるが、毎年季節の変わり目や冬場になると必ず軽重にかかわらず風邪を引いてきた。1 去年は史上初のインフルエンザに遭遇してしまった。そこで昨年の秋から現在まで絶対風邪を引かないよう①手洗い、うがいの実施②身体の保温③汗の後始末などの風邪予防の基本中の基本を毎日忠実に実行したところ、今のところ1回も風邪の兆候がなく過ごせている。改めて基本の大切さを身に染みて感じている。

ジョン・ウッドンは「成功のピラミッド」というコンセプトで自身が目指す人生の「成功」(他人との比較ではなくて自分自身の成長)を成し遂げるための基本を二つ挙げている。「情熱」と「努力(勤勉)」。また、「高い目、低い手」という言葉があるが、人生は大きなロマン、高い理想を持って生きながら、日常生活においては具体的なことを注意深く行うこと、地道で簡単なことを心を込めて確実に行うことの必要性を説いている。

桜が咲き新しい出会いも真近、自分自身の生きる目標に向けての「情熱」「努力」を再確認し、健康、バスケット、日常生活も基本を重視して生きて行きたいものである。